

わが

これから住み続けたいと実感できる
「輝く羽咋」の実現に向けて

羽咋市について

羽咋市は、能登半島の付け根に位置し、市の中央に広がる平野部を囲むように、北側に眉丈山系の丘陵地、東側には、宝達山・石動山系の山々が緑豊かに連なっています。西側の海岸には、日本で唯一、波打ち際を車で走ることができる「千里浜なぎさドライブウェイ」



車が走行できる「千里浜なぎさドライブウェイ」



2千年の歴史がある江戸山神事相撲

ライプウェイ」があり、全国から観光客が訪れる能登屈指の観光拠点となっています。

また、「羽咋」という名前は、神話に由来し、遠い昔、この地域に出現していた怪鳥を、磐衝別命（イワツクワケミコト）という皇子が3匹の犬と

共に退治。犬が怪鳥の羽を喰ったことから、「羽咋（はくい）」という地名が誕生しました。現在でも神話にゆかりのある遺跡（古墳）が残されているほか、相撲を好んだ命の命日には「水なし、塩なし、まったなし」の古式にのっとりた二千年の歴史を持つ「江戸山神事相撲」が毎年開催されています。そのほかにも、数多くの重要な文化財や勇壮な祭りなど古くからの歴史が息づくまちです。

「ここに来れば誰かに会える」
多様な人々の新たな交流が
生まれるサードプレイス

JR七尾線羽咋駅西側の商業施設地を活用し、「羽咋の未来をともし、集い、ふれあう、賑わい拠点づくり」を基本コンセプトに掲げ、子どもから高齢者までさまざまな

世代が、集い触れ合う場として、また、羽咋駅周辺と市全体の賑わいに寄与する施設として令和6年7月1日に誕生したのが「LAKUNA（ラクナ）はくい」です。「気楽な」という意味と、LAKUNAの「L」はlighting（灯す）の頭文字を取り、施設の基本コンセプトである「羽咋の未来をともし、集い、ふれあう、賑わい拠点づくり」を表し、気楽に楽しく、さまざまな世代に利用してもらい、羽



LAKUNAはくい外観



LAKUNAはくい外観（夜）

咋の未来を明るく灯してくれる施設となればという思いを込めています。

1階は、川や広場に面した緑豊かな環境で、ゆったりと過ごしながら、読書や勉強ができる図書カフェや、市民が自由に語らうことができるスペースとなっています。2階は子どもたちが心を躍らせる立体的なバンク遊具を中心とした屋内公園となっています。ネット遊具や秘密基地などで楽しく過ごすことができる空間です。そのほか、eスポーツスタジオや地域活動を支援するシェアスペース、イベントホールを配置し、幅広い世代が思い思いの時間を過ごせる環境を整えました。

開館以来、市民をはじめ多くの方々が訪れ、お茶を楽しんだり、読書や勉強、地域活動、さらにはさまざまなイベントの会場としても活用される



LAKUNAはくい1階図書カフェ・学習スペース



LAKUNAはくい2階LAKUNAこうえん

など、予想を超える広がりを見せています。

特筆すべきは、LAKUNAはくい1階が単なるハコモノにとどまらず、子育て、健康、地域防災、文化伝承、そして地域経済の活性化を担う場として活用されていることです。

市民が主役となる取り組みも多く行われ、LAKUNAはくい1階に人が集い、そこから連携や挑戦が生まれていきます。羽咋市の新たな変化は、この場所から始まっているといっても過言ではありません。

羽咋の空に、ふたたびトキを

本年の6月ごろ、羽咋市において本州初となるトキの放鳥が予定されています。トキはかつて田んぼの上を当たり前に飛んでいた日本の原風景を象徴する存在であり、同時に人と自然が共生する農村文化の象徴でもありました。石川県は、本州最後のトキの生息地で、トキに大変ゆかりが深い土地であ

り、トキを「里山里海」の保全のシンボルとして、トキの放鳥に向けた取り組みを進めてきました。

令和7年7月、「能登地域トキ放鳥受入推進協議会」の審議の上、羽咋市の南潟地区がトキの放鳥場所として決定しました。放鳥場所として羽咋市が選定された理由は、能登の餌生生物の生息状況が、すでに放鳥を行っている新潟県佐渡市と似ていることや、当市にはトキの餌が確保できる十分な水田面積があり、トキが定着する可能性が最も高い場所として評価されたことです。

当市では、トキ放鳥に向け「羽咋市トキが舞う里推進協議会」を設立し、令和7年11月には新潟県佐渡市への先進地視察を行い環境整備などについて学んできたところです。トキが美しい羽咋の地から羽ばたき、能登全体の未来につながる復興のシンボルになるよう、関係者と力を合わせながら環境整備や機運醸成を一層進めていきます。

トキの放鳥が最終目標ではありません。人口減少が進む地方都市において、地域の魅力をいかに磨き、未来への投資をどのように重

ねていくかは共通の課題です。トキの放鳥を通じて、ふるさと教育、自然環境を守ることの大切さなどトキと共生する当市の魅力をさらに高めてまいります。

トキが再び羽咋の天空へ羽ばたくその日、多くの方がその姿を見上げ、羽咋の未来に希望を感じる、

プロフィール

◆ 面積 81・84 km²
◆ 人口 1万9347人
◆ 世帯数 8529世帯

〔将来都市像〕共に輝き、チャレンジできるまちを創る

〔まちの特徴〕由緒ある神社仏閣も数多くあるほか、能登唯一の穀倉地帯である邑知平野を囲むように、眉丈山系の丘陵地、富山県氷見市と接する山が



羽咋市長
岸 博一



そびえる自然豊かなまち
〔特産品〕米、スイカ、岩ガキ、のとしし肉
〔観光〕千里浜なぎさドライブウェイ、気多大社、妙成寺、永光寺、コスモアイル羽咋など
〔イベント〕SSTR、唐戸山神事相撲、羽咋神社川渡し神事など



トキが舞う羽咋へ



小学生がトキについての学習成果を発表

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人・自然・未来がつながる
はんのう、好循環を育む
ずっと暮らしたいまち、
森林文化都市

飯能市は埼玉県の南西部に位置し、都心から約50km圏内という交通アクセス良好な環境にありながら、地域の約75%を森林が占めており、緑と清流という豊かな自然に恵まれた、人の優しさと温かさにはっこりするまちです。

昭和29年、県内9番目に市制を施行し、令和6年には市制施行70

周年を迎えました。平成17年に旧名栗村と合併し、県内3番目に広大な面積を持つ市になりました。

本市は林業で栄えたまちであり、その歴史は古く、江戸時代には森林から切



西川材を活用した公共施設

り出した木を筏に^{いかだ}し、川を通じて江戸のまちに届けていました。「江戸（東京）の西の川からくる木材」という意味で、本市周辺の木材を「西川材」と呼ぶようになったといわれています。

本市の特産品である西川材をはじめ、古くから豊かな森林と人との共生によって、人々の暮らしや文化・歴史、産業が育まれてきました。平成17年には「森林文化都市」を宣言し、自然と都市機能が調和した、暮らしやすい都市を目指しています。

豊かな自然と人々が
共生するまちづくり

そんな本市の魅力を活用し、都市部へ通勤しながら自然が豊かな環境で子育てができる、農のある暮らし「飯能住まい」制度を導入

し、移住を希望する方を後押しする支援を行ってきました。併せて、0歳児の子ども一人に対し、5万円分のクーポン券を支給する「赤ちゃんスマイル事業」や「子ども医療費無償化の対象年齢の拡大」、「こどもの居場所づくり活動団体への支援」など、切れ目のない子育て支援にも力を入れています。

自然と共生するまちの姿は北欧文化と通じるところがあり、平成9年にはムーミンシリーズの作者であるトーベ・ヤンソン氏との手紙

のやり取りから、ムーミン童話の世界をモチーフにした公園（現トーベ・ヤンソンあけぼの子どもの森公園）が開園しました。



「農のある暮らし」「飯能住まい」制度で移住希望者を支援

そのつながりもあり、平成30年には北欧に流れているような心地よい時を過ごせる「メッツァビレッジ」、平成31年には母国フィンランド以外では世界初のムーミンのテーマパークである「ムーミンバレーパーク」が開園し、大きな話題となりました。それに伴い、市内観光施設の整備にも力を入れ、本市の山間地域には北欧の文化を味わうことのできるアウトドア施設「ノーラ名栗」を整備したことなどで、多くの観光客が訪れてにぎわっています。

その効果もあり、人口減少社会の中、主に子育て世帯の転入が増加し、平成27年から10年連続で社

会増（転入超過）となっており、令和6年には23年ぶりに人口増加となりました。

「まちなか」から飯能とつながる人を増やす

人口減少が前提となるこれからのまちづくりには、市民、事業者、行政など多様な人々が、それぞれの立場から積極的にまちづくりに参画し、連携しながら進めていくことが重要です。本市では、10年、20年先を見据え、公民連携による持続可能なまちづくりを推進する



ムーミンのテーマパーク「ムーミンバレーパーク」

© Moomin Characters™

ため、令和6年に「飯能まちなか未来ビジョン」を策定しました。ビジョンでは「ほしい暮らしを描き、森林とともに育むまちなか」をキーワードに、居心地が良く、歩きたくなる「ウォーカブルなまちなか」などの実現を目指しています。

また、中心市街地などのにぎわい創出を通じ、定住人口、交流人口および関係人口の増加による地域の活性化を目的とし、令和6年に民間事業者と連携協定を締結しました。令和7年3月には連携事項の一つである「ムーミンに会えるまち、はんのう」のシティプロモーション推進のため、プロジェクト推進協議会を立ち上げ、そのキックオフ事業として、本市の玄関口である飯能駅の構内にムーミンのオブジェを設置しました。オブジェの設置により、地域住民のシビックプライドや訪れる方々の高揚感の醸成を目指すとともに、飯能駅を起点とした市内回遊性の向上につなげていきます。

市民とともにつくる、ずっと暮らしたいまちへ

本市では、「市民とともにつく

る飯能市」をキャッチフレーズに市政運営を行ってきました。市民との対話を重視するため、毎年度、市内各地区で「ふれあいミーティング」を開催し、市民との意見交換を行っています。現在進めている、令和8年度を始期とする第6次飯能市総合振興計画の策定に当たっても、「ふれあいミーティング」の場での対話やアンケート収集のほか、市民や本市若

プロフィール

- ◆ 面積 193.05 km²
- ◆ 人口 7万7405人
- ◆ 世帯数 3万6726世帯

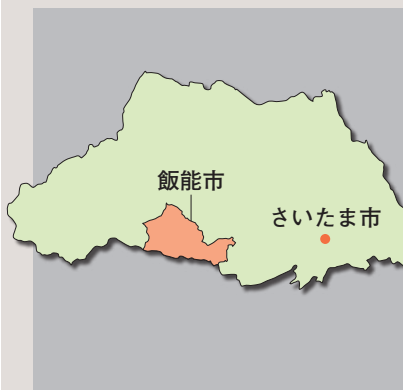
〔将来都市像〕水と緑の交流拠点 森林文化都市 はんのう

〔まちの特徴〕都心から約50 km圏内で交通アクセス良好な環境にありながら、緑と清流の自然に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成17年1月1日、飯能市、名栗村が合併



飯能市長
新井重治



〔特産品〕西川材、武州飯能うどん、黒舞茸、飯能焼、四里餅、すいとん
〔観光〕メッツアビレッジ、トーベ・ヤンソンあけぼの子どもの森公園、飯能河原、天覧山、ノーラ名栗、エコツアー等
〔イベント〕飯能春まつり、飯能新緑ツデーマーケット、飯能まつり、奥むさし駅伝競走大会、飯能ひな飾り展など

手職員によるワークショップの開催などを行い、多様な主体の参画により、市民や職員それぞれが目標を共有できる計画づくりを大切に行っています。
次期計画では、本市に関わる人々で生み出す好循環を大切に育み、あらゆる人が本市での暮らしの豊かさを実感できる、ずっと暮らしたいと思えるまちの実現を目指していきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

スマイルシティふくろいの
実現に向けて

静岡県袋井市は、東海道の江戸日本橋からも京都三条大橋からも真ん中の27番目の宿場「どまん中ふくろい」として栄え、東名・新東名高速道路のダブルネットワークを活用できる優位性など、今も昔も東西交通の要衝として発展してきました。国内最高

が非常に低い県内屈指の「若いまち」であり、就労、子育て、住まい、それぞれの環境がバランスよく整っていることが、若い世代に受け入れられている要因の一つではないかと認識しています。

※静岡県内では、35市町中、第2位（1位：長泉町、3位：御殿場市）

20年の歩みを礎に、
未来を拓く

さて、私たちを取り巻く社会情勢は、目まぐるしく変化しており、全国的にも人口減少局面を迎えるなど、大きな転換点に直面しています。これまで、本市の人口動態は、比較的優位にありましたが、今後は、人口減少が及ぼすさまざまな影響を避けることができず、これまで誰も経験したことがない社会変化に直面することになると

広域幹線道路整備による
産業・観光、防災対策の
推進

認識しています。
このような中、令和7年、本市は、市制施行20周年を迎え、今後さらに30年、40年と持続可能なまちにしていきたいため、本市が有する地域資源を最大限に活用した「ふくろい賑わい創出プロジェクト」を着実に進めています。

主要施策としては、新東名高速道路森掛川インターチェンジと東名高速道路袋井インターチェンジを結び、さらには国道1号バイパスや国道150号を結ぶ広域幹線道路として、森町袋井インター通り線の整備を推進しています。平成31年4月には国道150号から東名高速道路袋井インターチェン



袋井市特産「クラウンメロン」

ジまでの区間が国の重要物流道路にも指定され、本路線の整備は、この地域のみならず、静岡県西部全体の産業・観光に資するとともに、防災面でも非常に大きな役割を果たすものであり、関係する静岡県・森町とも連携し、早期供用開始に向けて事業を進めています。

都市拠点における
さらなる機能強化

また、市の核となる都市拠点であるJR袋井駅周辺においては、さらなる都市機能強化を視野に、袋井駅南地区を対象地とした「ふ



法多山万灯祭



遠州三山風鈴まつり

峰ブランドのクラウンメロンをはじめ、遠州三山（法多山、可睡斎、油山寺）といわれる名刹や、エコパスタジアム、「ふくろい遠州の花火」などでも有名です。

また、本市は、令和7年度「高齢者福祉行政の基礎調査※」によると、高齢化率



ふくろい遠州の花火

市内の至る所で 「にぎわい」を創出

さらに、沿岸部では、東日本大

全・安心を支える場（セーフ）の四つをコンセプトとして掲げ、市民をはじめ、民間事業者や行政が、共に創り、共に育てることで、治水機能とにぎわいや魅力を有した新時代につながる活力ある都市空間を創出していきます。



可睡ゆりの園

くろいセントラルパーク構想」を策定し、袋井から挑戦できる場（チャレンジ）、緑と水を活かした笑顔・楽しさを生み出す場（ファン）、袋井の新しい暮らしを提供できる場（ライフ）、安



うみでらすDORI（どうり）

このほか、産業の新たな展開を推進していくため、本市と静岡県工科大学、商工団体や金融機関が連携を強化し、競争力のある中小企業の成長を積極的に支援する「ふくろい産業イノベーションセンター事業」により、技術課題の解決支援や研究開発の促進など、

震災以降実施してきた防潮堤整備に一定の目途がつき、現在、同笠海岸における「海のにぎわい創出プロジェクト」として、うみでらすDORIでのにぎわいイベントの開催やスポーツエリアの充実、RVパークの整備を進め、多くの方々が集まる仕掛けを行うことにより、沿岸部の活力をさらに高めていきます。

プロフィール

地域の「稼ぐチカラ」の強化にも取り組むとともに、令和7年5月には、若者を中心とする起業のサポートや、市内事業者の新事業へのチャレンジ支援を目的とした多様な人々が交流するコワーキングスペースBIRDS^スを開設しました。

本年は、第3次袋井市総合計画がスタートします。まちの将来像

を「にぎわい ずっと続くまち ふくろい」と定め、この実現に向け、「誰もが笑顔で 自分らしく輝けるまちの実現」「住み続けたいと思える 魅力あふれるまちの実現」「多彩なつながりで 支え合いを実感できるまちの実現」の三つをまちづくりの基本目標とし、職員一丸となって全力で取り組んでいきます。



袋井市長
大場規之

〔将来都市像〕
にぎわい ずっと続くまち ふくろい
（令和8年度から第3次袋井市総合計画がスタートします）

〔まちの特徴〕平坦な土地が多く、温暖で日照時間が長い気候に恵まれ、交通の要衝として栄えてきたまち

〔市町村合併〕平成17年4月1日、袋井市、浅羽町の2市町が合併

◆面積 108・33 km²
◆人口 8万7562人
◆世帯数 3万7724世帯



〔特産品〕温室メロン（クラウンメロンは、全国ブランド）、茶、米、豚、肉用牛、生乳、いちごなど

〔観光〕法多山、可睡斎、油山寺、静岡県小笠山総合運動公園「エコパ」、うみでらすDORI（どうり）など

〔イベント〕ふくろい遠州の花火大会、法多山田遊祭、可睡斎ひなまつり、遠州三山風鈴まつり、袋井クラウンメロンマラソンなど

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

つながるチカラでまちづくり
天草版地方創生への挑戦

天草市は、熊本県の南西部に位置し、大小120余りの島々が点在する美しい海と豊かな自然に囲まれた天草諸島の中央部に位置します。熊本県内で最大の面積を有し、歴史的な背景や文化が色濃く残っています。



イルカウォッチング

特に、キリシタン文化や歴史的な遺産が多く、神道や仏教、キリスト教が混在している漁村「天草の崎津集落」が世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産の一つとなっています。



天草の崎津集落

また、天草諸島には1億年の大地の記録が残されており、日本で初めて発掘されたティラノサウルス科恐竜の下顎の化石をはじめとするさまざまな化石



御所浦恐竜の島博物館

石が発見されており、これらの化石と天草の自然資源を紹介する施設として「御所浦恐竜の島博物館」を令和6年3月に開館しました。

さらに、市の北西部に浮かぶ通詞島沖合には、約200頭の野生のミナミハンドウイルカが生息し回遊しており、イルカがサメから人を守ってくれる、まさに天草は人とイルカが共存している島でもあります。

豊かな自然や食、
伝統文化を守る

本市は、平成18年3月に2市8町が合併して誕生し、本年3月に20周年を迎えます。市制施行に併せて、旧市町ごとの10の地域にまちづくり協議会、小学校区などを単位とした51の地区に地区振興会を設置し、それぞれの地域の個性や特色を生かした独自のまちづくりを展開してきました。

しかし、合併後20年を迎えようとする今日、特に中心地以外の地域においては、人口減少や少子高齢化、担い手不足による地域活動の低下がさらに顕著になるのではないかと危惧しています。また、このことにより、これまで各地域で代々守り継がれてきた豊

かな自然や食、伝統文化など貴重な資源が失われることにもつながってきます。

これからの本市は、各地域の活性化なくして世界に誇れる魅力を守り続けることはできません。そのためには、地域を守りつないでいく人材を掘り起こし、地域の資源や魅力を再発見していただく。そして、自らが暮らす地域に自信と誇りを持ち、住み慣れた地域で心豊かに暮らすことができるようさまざまな取り組みを進めています。

抜本的な公共交通の再編

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、



オンデマンド乗合タクシー

まずは、交通の利便性向上を図っていくことが必須です。市の中心地の都市機能の充実を図りながら地域を守っていく、そ



体験学習の島づくり



して、市の中心地と各地域がつながり、人・モノの交流と循環によって、本市全体の活性化を図っていかねばなりません。そのため、地域間の移動の利便性を高める公共交通の抜本的な再編に取り組んでいます。

地域外への移動には幹線走る路線バスを再編・増便し、各地域内の移動については、自宅から目的地までドアtoドアで小回りの利く、AIを活用したオンデマンド乗合タクシーを導入します。これらを連結させることで、本市内の交通の利便性は飛躍的に向上すると考えており、令和10年度までには全ての地域に導入する予定です。

公共交通の再編を進めることで、交通空白地帯の解消と高齢者の免許返納などによって生じる買い物などの日常的な生活の足を確保することができそうです。また、世界中から訪れる観光客の方々にも、この美しく豊かな天草

の隅々までを、自由に観て回ることができると本市内の交通網を作り上げたいと考えています。

地域を守りつなぐ 人づくりと人材の発掘

地域が輝き続けるためには、地域の活力を取り戻さなくてはなりません。そのため、地域を守りつなぐ人材の育成と発掘に取り組んでいます。

小中学生には、「体験学習の島づくり」として、自然や豊かな農林水産物、クリシタンの文化・歴史などの天草の強みを生かした体験的・実践的な学習活動を通して、児童生徒が主体的に挑戦することや協働することの重要性などを学ぶことで人間性を豊かにし、生きる力を育むことを目的に取り組んでいます。

また、高校生には「天草宝島起業塾」、若手社会人には「あまくさ未来創造スクール」や「デザインプロデューサー道場」などで、子どもから大人までの学びに力を入れ、天草で学び、本物の宝に気づき、五感で感じていただくなど、高齢者までの一人一人が故郷に誇りと自信を持っていたくための

取り組みを進めています。

さまざまな「学び」の基に育った人たちが、必ずや地域を守り、地域に活力を生み出してくれることを期待しています。

結びに

本市は、本年、市制施行20周年、

プロフィール

- ◆ 面積 683・82km²
- ◆ 人口 7万473人
- ◆ 世帯数 3万5732世帯

〔将来都市像〕「ともにつながり 幸せ実感 宝の島「天草」」誰もが天草に誇りを持ち、心豊かに暮らせ、いつまでも住み続けたいと思えるまち

〔まちの特徴〕人情豊かな「ひと」と美しい自然や豊富な農林水産物、受け継がれてきた歴史や伝統文化などが息づくまち

〔市町村合併〕平成18年3月27日、本渡市、牛深市、有明町、御所浦町、倉岳町、栖本町、新和町、五和町、天草



天草市長
馬場昭治



町、河浦町の2市8町が合併
〔特産品〕デコボン（柑橘類）、天草大王（地鶏）、天草黒牛、天草陶磁器、雑節、車えび、ウニ、緋扇貝
〔観光〕イルカウォッチング、天草の崎津集落（世界文化遺産構成資産）、下田温泉、御所浦恐竜の島博物館、天草夕陽八景
〔イベント〕牛深ハイヤ祭り、天草ほんどハイヤ祭り、天草大陶磁器展、天草宝島国際トライアスロン大会、下田温泉祭、栖本太鼓踊り

雲仙天草国立公園「天草地域指定」70周年、さらには天草五橋開通60周年の大きな節目の年を迎えます。受け継がれてきた「歴史や文化、美しい景観に恵まれた「天草」を後世に引き継いでいくための天草版地方創生を進めていきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。